

C-5 労働者の衣服に関する衛生学的研究 — 中静時運動時における衣服気候 — 名古屋女子大 ○酒井清子 佐野悦子

目的 婦人服の衣服衛生に関しは従多くの研究がみられるが、労働を対象としたものは成人に比べはるかに少数である。

労働者の生活が最も活動的であることから運動時の環境着用条件をきえる必要がみられると思われ、労働者が通常運動時に着用する運動着を着用した時の中静時運動時における衣服気候の変化を観察した。

方法 実験は、1975年3月環境気候 $21 \pm 0.5^{\circ}\text{C}$ ・気湿 $45 \pm 5\%$ の人工気候室内において、労働女子高専生1名・低専生1名の計2名を被験者として、運動着を着用した時の中静時1時間・歩行30分についての体感温度・湿度の状態について測定した。

結果

1. 中静時における労働者の平均皮膚温・舌下温・衣服減少率・湿度感率は成人女子に比べ大きい。

2. 中静時と歩行時を比較すると、平均皮膚温・舌下温・衣服減少率・湿度感率が歩行時の方が大きい値を示している。